

第 1 部

開所までの経緯と私たちの思い

就労継続支援B型事業所 Leap

施設長 横山 森之

障がい者の【やりがい】と【一般就労】

Leap

2024・9・11

經緯

私は30才まで大工として現場仕事をし、その後住宅の営業を経て2014年9月に薪ストーブ専門店と建設業として米沢市にLeapの母体企業である、(株)Restを創業しました。

障がい者とは、市役所のロビーで販売をしている光景を見るくらいで完全に無縁の生活を送ってきました。

正直、生涯交わる事の無い世界だと思っていました。

きっかけ

2018年に薪ストーブのエンジニアになりたい。と就職希望があり1人の従業員を雇用しました。

同時期に新潟市に薪ストーブのショールームを出店したことで、新潟の現場が増え片道2時間以上の道中で新入社員と様々な話しをしました。

元の職業が障がい者福祉事業所で、10年以上勤務していた。

話を重ねるたび、私の障がい者に対するイメージと違う事に
違和感を覚え、興味に変わっていきました。

すぐに彼の繋がりのある事業所や個人的な繋がりを辿り県内外
の事業所を見学に行きました。

様々な障がいや特性を持つ方が日々作業にあたっていました。

気づき

女性スタッフの割合が多い。

※3・40代男性が少ない

特化した仕事が多い。

※仕事が固定化

室内作業が多い。

※1部屋でまとまったの作業

みんな同じ作業をしている。

※軽作業が多い

衝撃

作業を終え車で帰った方をスタッフだと思っていた方が、
実は利用者さんだった。

障がい者福祉には無縁でしたが、熱い想いを持つ多くの方と
接する度に障がい者福祉について学ぶようになりました。

障がい者の方もやりたい仕事があり、たくさんお金も欲しい。

恋愛もしたいし、家庭をもって自立したい人もいる。

健常者と変わらない。

障がい者はひとくくりではない。

約1年後

- 障がい者福祉全体よりも、障がい者個人のためにありたい
- ご利用者さんの希望に対し、わかりやすい施設でありたい
- Leapに通所する意味を共有し、目的をもって作業にあたる
- 様々な就労体験を体験することで、新たな発見をしてほしい
- お金を稼ぐ大変さや喜びを感じてもらう

Leapの目的

一般就労はもちろん、継続的な就労につなげること。

現 在

(Leapを運営して4年)

支援や指導、声掛けも大事だが、
同じくらいまわり環境が大事だと思った。

養護学校で積み重ねてきたことを大切にしているか。

仕事ができるできないではなく、日常生活の基礎をしっかりと

引継いで積み上げていく事にも力を入れています。

日常生活や仕事に対する姿勢・能力を月に1度一人ひとりと
面談し、現在の課題を共有し先月の振り返りとこれからの
目標を決めています。

様々な特性や特徴を持つ方々を支援をすることで、
ゴールは一人ひとり違い、その目的を共有し達成す
ることが利用者はもちろんスタッフのやりがいにも
繋がると思っています。

第 1 部

ご清聴ありがとうございました。